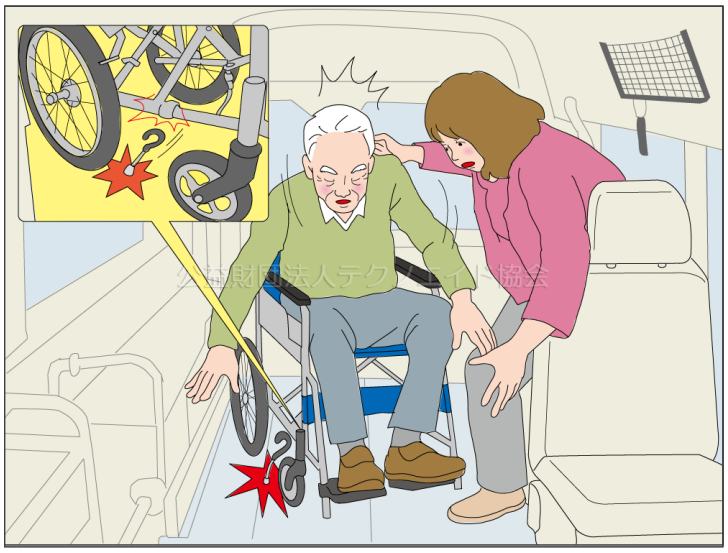
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：284

振動や急加減速で姿勢が崩れ、転落しそうになる

場面の説明

福祉車両に搭乗中、振動や急加減速で車いすを固定している部品が外れ、車いすが揺れて転落しそうになった



利用シーン	外出 乗り物
主な利用場所	車内
介護保険の種目	ー
分類コード(CCTA95)	121224 (車いす固定装置)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

フックの固定位置の誤り、スイッチの押し忘れなどにより、車両内で車いすが動いてしまう事例があります。固定不良は重大事故につながるため、固定操作後の確認手順を標準化し、必ず目視とともに車いすを押すなどして動かないことを確認する必要があります。また、ワンタッチで固定が可能な簡易固定システムも開発されており、ヒューマンエラーを減らす対策として有効です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：車いすを固定するベルトに緩みがあっても気にしなかった
モノ：固定方法が複雑で、しっかり固定されているかの確認も簡単ではなかった
環境：車内が暗く、固定の目視確認がしにくかった
管理：しっかり固定されたかどうかの確認ルールが徹底されていなかった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.